

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 ひがし)

事業所番号	0671200301		
法人名	有限会社ウェルネスさがえ		
事業所名	グループホームあしたば		
所在地	寒河江市大字西根字石川西 294-3		
自己評価作成日	平成23年 9月 8日	開設年月日	平成18年 3月 3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・ 利用者の笑顔を大切に、利用者の出来る事・出来ない事を見極め、役割を持ってもらいながら共に支えあう関係づくりを築いている。
 ・ 入居者・家族・職員の各関係において、会話・相談等気軽に話せるような雰囲気作りをし、温もりのある事業所を目指している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)
 (公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-yamagata.info/yamagata/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目 3-31		
訪問調査日	平成 23年 10月 14日	評価結果決定日	平成 23年 11月 7日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは今年新たにもう一つのユニットが増築され、玄関を入ると東、西のフロアでは利用者全員がラジオ体操で身体を動かし、出来る事の手伝い等健康維持に心がけ活き活きと過ごしています。新しい西ユニットには「安らぎと喜びのある毎日を自分らしく生きる」の理念を掲げ、職員は笑顔で一人ひとりのペースに合わせながらゆったりと関わり、利用者・職員共に日々楽しく穏やかな生活ができるよう懸命に取り組み、和やかな温かみのある事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で共有出来るように、職員全員で理念を作り上げてホール内に掲げている。また、より具体化した介護目標も掲げて実践に向けて取り組んでいる。	理念や介護目標について職員全員で話し合いを設けている。新人職員には関わりの中で現任がマンツーマンで指導し「自分だったら」を念頭に置き、日頃のケアに反映させている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日頃から、近隣の方と挨拶・会話を交わしながら近所つきあいをしている。また、文化祭への参加・祭りみこし見学・鮎の寄贈・ボランティアの受け入れなどにより、地域の一員として交流を図っている。	月に一度ボランティアによる歌の披露や職場体験の受入れ等がある。地域の文化祭には、作品や生花の出展をする事で利用者の喜びに繋がっている。ホームのいも煮会は家族等の懇談で盛り上がり、支援の輪が広がっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々にに向けて活かしている	市と一緒に、認知症サポーターの養成講座や市民講座に参加したりし、地域の人々に認知症の人の理解や支援の方法を広めたりしている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月毎の会議を行い、事業所の活動報告や質疑を行い、各方面の意見・アドバイスを頂きながら、より良いサービスになるよう努力している。また、会議は、双方向的な会議になるよう配慮し、意見を言えるような雰囲気になるよう努めている。	定期的な運営推進会議は活動報告等を行ない、特にテーマは決めず形に囚われる事なく気兼ねのない雰囲気の会議になっている。メンバーからは「認知症に対する理解が高まり有難い」と感謝の声が聞かれ、地域の情報を得る等サービスに活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ホーム長、管理者は、実際に市へ足を運んだり、電話で相談・情報収集をし、連絡を密にし、協力関係を築くよう努力している。	市担当者の窓口に出向いたり、市の方から毎月来訪することも多く、担当者はホームに来るとホッとされるくらい馴染みの関係になっている。認知症サポーター養成講座の講師依頼等、協働の取組みで積極的な関係作りを図っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	運営規定に、原則的に、身体拘束はしないという方針を掲げ実践している。職員は、その弊害を認識し、創意・工夫しながら取り組んでいる。	入職時、マニュアルを基に研修で理解し、日頃の関わりで職員同士確認している。予測されるリスクについて家族等と来訪時に話し合い、安全を確保しながら自由な暮らしができるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止の研修会等に参加し、職員への伝達研修を行いながら、虐待のない介護を実践している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要に応じて関係者と話し合い、権利擁護の活用が出来るよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約には、十分な時間をとり契約している。また、その中で、質問・疑問点については、わかりやすい説明に心がけ、理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には、近況報告をするとともに、何でも言ってもらえるような雰囲気作りを努めている。また、運営推進会議には、利用者本人及び家族の方からも出席してもらい、意見を言ってもらっている。また、ホール内に意見箱を設け、意見を表せるようにしている。	殆どどの家族が利用料を持参するなど月に何度か来訪される機会に、気軽に話せるよう配慮し、顔の見える関係を築いている。	
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回の職員会議では、出来るだけ全職員が出席するようにし、日常業務・利用者の状況などについて討議している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員とともに介護現場に入り、現場の状況を把握しながら、働きやすい職場となるよう職場環境・条件の整備に努めている。		
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験の浅い職員には、新人研修に参加してもらったりし、経験年数に応じて外部研修を受ける機会を設けている。また、伝達研修なども実施し、スキル向上につなげている。	外部研修へ参加した場合、毎月の職員会議で伝達研修を行ない共有している。対応の仕方や日頃の疑問点等は会議時に全員で話し合い、意識向上に繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	県のグループホーム協会に加入し、定期的な会議への参加、交換実習への参加、各種研修会への参加などにより、同業者との交流を図っている。また、他施設のイベントへの参加、相互訪問等を通じて、質の向上に向け取り組んでいる。	グループホーム連絡協議会主催の交換実習や他事業所の夏祭り等に参加し、交流を図っている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談時に、本人や家族からの話に耳を傾け、本人も家族も安心して利用できるような関係づくりに努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の相談時には、家族の話には十分な時間をとり、共有しながら信頼関係づくりに努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談や相談で、本人や家族が必要としている支援を聞きながら、他のサービス利用も含め柔軟な対応に努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として、生活の知恵を教えてもらったり、出来ることを手伝ってもらったり、共に過ごしあう関係づくりに努めている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には近況報告をし、家族と相談しながら共に支えあう関係づくりに努めている。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔からの馴染みのお店に行ったり、友人の訪問を受けたりし、これまで築いてきた関係が途切れないよう支援している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者それぞれの役割・関係を見極め、利用者同士が支えあいながら生活できるような支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用の間に培われた関係性を大切にしよう心掛けている。また、他事業所に移動した場合には、関係者に本人の状況やケアについて情報を伝え、相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に、本人や家族等から趣味・希望等を聞いたり、毎日の生活の中で本人の意向の把握に努め、出来るだけ本人が不安なく穏やかな暮らしが出来るよう支援している。	利用者の目線に合わせ、思いを聞き取り、地域の文化祭への出展に向けて喜びや意欲に繋げている。困難な方には二者択一の方法を試みる等工夫しながら希望に沿えるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族より、基本情報を記入してもらったり、聞き取りなどにより、一人ひとりの経過等の把握に努めサービスに活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	それぞれの心身の状況に合わせ、残存機能を活かしながら暮らせるよう支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月一回の職員会議にて、一人ひとりの課題やケアについて、家族からの要望を含め、職員全員で情報を共有し、介護計画の作成に努めている。また、家族から介護計画の同意を得ながら実践している。	家族等からの情報を下に、主治医の意見も入れ「穏やかな生活ができるように」を大切に、作成している。日々の申し送り時や職員連絡帳、会議で気づきを共有し毎月見直しを行ない現状に即した介護計画となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録に記入し、毎日の申し送り時や職員会議等で意見を出し合いながら介護計画の見直しをしている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化(小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載)</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>				
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>ボランティアの受け入れをしたり、馴染みの店に出かけたり、公共施設を利用したりし、楽しみを持って暮らせるよう支援している。</p>			
30	(11)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>受診は、本人・家族の希望するかかりつけ医での受診になっている。また、ホームでの状況について情報提供しながら適切な医療がうけられるように支援している。</p>	<p>受診支援体制は家族付き添いになっているが、急な時は家族の同意を得て職員が同行し、その後状況報告をしている。緊急時のマニュアルがあり、それに沿った対応が職員間で共有できている。</p>		
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>看護師を配置し、日常的な健康管理を行い、適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>			
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院した際には、病院関係者に詳しく情報を共有するとともに、面会に行くなどして本人の回復状況を把握し、早期退院に向けての相談や連携に努めている。</p>			
33	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居契約時に、重度化した場合や状態が変化した時の事について、事業所として出来ることを説明し、話し合いながら対応している。</p>	<p>家族等には入居時と状況変化に応じた随時の説明がある。急変時に備えた蘇生訓練の実施も行なわれており、職員からは今後も何回かに分けて再度実施要望の声が聞かれる。</p>		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急蘇生訓練の研修会に参加したり、ホームにて蘇生訓練を実施したり、応急手当のマニュアル等にて学習している。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	近隣住民や消防署の協力を得て、定期的に避難訓練を実施している。また、災害に対応するため、懐中電灯等の備品・食材・飲料水の備えもしている。	災害に向け備蓄面でキープできているが、再確認を予定している。今回の東日本大震災時の利用者の反応は、その時の揺れや停電に驚いたが、まもなく居室に戻り休んだ方や、不安が残り職員とフロアで過ごした方と、それぞれの行動や表情を捉えることができた。	近隣住民に声がけの形で依頼しているが、一歩踏み込んだ協力内容(事業所としてどうしてほしいか)を理解してもらうこと、地域全体で行なわれる防災訓練等への参加実現を期待したい。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉の内容や声の大きさに注意を図りながら対応している。また、排泄時などは、雑談しながら対応したりし、工夫しながら対応している。	利用者の誇りや満足度を受け止める為に、声がけや誘導時に居室やドアの外で見守り、周囲への配慮を兼ねた支援となっている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表現したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の関わりの中で本人の希望を聞いたり、自己決定できるように働きかけている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の生活リズムを大切に、心身の状況に応じて、本人らしく過ごせるよう出来るだけ希望に沿うよう支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人好みの洋服や化粧品等を購入し、その人らしいおしゃれが出来るよう支援している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立作成時に、メニューのバランスを考えながら希望を取り入れたり、外食・出前・行事食を交えながらみんなで食事を楽しめるようしている。また、出来る人には、準備や後片付けなどを職員といっしょに手伝ってもらい、利用者の力を活かしている。	職員手作りで利用者の好みを取り入れた、ユニット毎の特徴を活かした献立表が作られている。手伝いは出来る事への協力をしてもらい、利用者・職員共にテーブルを囲んでの楽しい時間がゆっくと流れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立作成時には、栄養のバランスを考え、嗜好品や刻み食なども取り入れている。また、水分も食事時以外もお茶時間を設け確保している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きを実施している。自力で出来ない人は介助し、また、職員が仕上げ磨きをしたり、歯間ブラシ・口腔洗浄液・義歯洗浄剤等を使用し清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを記録・把握しながら、それぞれに合わせた声掛けやトイレ誘導の支援を行っている。また、雑談等をしながらさりげないトイレ誘導を心掛け配慮している。	排泄は自然排便に心がけ、できるだけ薬に頼らず、水分、乳製品、野菜類を多く摂ってもらえる様にしている。一人ひとりに合わせた排泄パターンが展開できている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便を促すために、食事に野菜を多く取り入れたり、一日一回乳製品を摂るようにしている。また、ラジオ体操を毎日の日課とし、身体を動かすよう心掛け便秘の予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	基本的な入浴日を決めてあるが、本人の希望、心身の状態に合わせ、臨機応変に個々に応じた入浴の支援をしている。また、入浴を拒む人は、タイミングを見て声掛けしたり、話題を変えながら対応し工夫している。	入浴介助や見守りで転倒防止に努め、安全に入ってもらっている。湯舟では日頃話さない事を話してくれたり、利用者に合わせて入浴時間帯を設け取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々人に合わせ、昼寝・休息・散歩・運動をしたり、寝る前に足浴をして安眠につなげている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者のカルテに薬の処方箋を保管し、常時確認できるようにしている。また、薬の変更時は、受診記録・介護記録・申し送り等で共有し、経過観察しながら症状変化の確認に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの生活歴に合わせ、趣味の現状維持・好きなこと・楽しい事を取り入れ、時には、気分転換にドライブや外食へ出かけている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員と利用者が一緒に買い物に行ったり、本人の希望を聞きながら、普段行けないような所へ出かけたり、外食に出かけたりして楽しんでいる。また、家族に働きかけながら外出・外泊する機会を応援している。	一日の流れの中で朝の清掃後、お茶の時間に「今日何をしたいか」を聞いている。一緒に車での買い物(食料・衣料品)やドライブ、あるいは利用者にとって期日の迫っている作品作り等、希望に沿った関わりとなっている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持している利用者もおり、購入したい物がある時は、スタッフと共に買い物を楽しんだりしている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から電話があった時は、本人にも話してもらったり、希望があればいつでも電話できるように支援している。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やホールには、利用者が生けた季節の花を飾っている。また、よしずを立てかけたり、ゴーヤのつるを這わせたりし、生活感・季節感を採り入れている。また、ホールは、台所を中心に一体化しており、食事の匂い等生活感が漂うよう配慮している。	共用空間作りをひと言で表わすと、「皆の居る場所」が掲げられる。そこには広いフロアがあり、テレビを囲み時代劇やスポーツ番組が人気を呼び居心地の良い場所となっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファでテレビを見たり、和室で横になったり、テーブルで好きなことをしたりし、それぞれの居心地の良い場所で過ごしている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、それぞれ使い慣れた物を持ってきてもらったり、写真や置時計を置いたりして、居心地良く過ごせるよう工夫している。	居室に入ると、使い慣れ親しんだ物があり利用者自ら「ゆったりとした」大好きな藤椅子に腰かけ「このボーっとした時間が必要なんだ」等の様々な声が聞かれる。まさに自宅の延長線そのものである。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホール内や廊下には、安全のために手すりを設置したり、トイレや浴室入口には、わかるような表示をし、自立した生活が送れるように工夫している。		